

政策整理番号 10

評価シート(A)

対象年度	H17	作成部課室	環境生活部自然保護課	関係部課室	土木部都市計画課, 産業経済部森林整備課
------	-----	-------	------------	-------	----------------------

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1 - 3 - 3	政策名	豊かな自然環境の保全・創造
------	-----------	-----	---------------

政策概要	多くの生物が生息している森林、河川、湖沼など多様で豊かな自然環境を保全し、かけがえのない財産として次代に継承するとともに、人と自然との豊かなふれあいの場を創出していくことを目指します。
------	--

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標	達成度
1	自然公園等の優れた自然環境の保全 優れた自然環境を将来の世代に引き継ぐため、自然公園や県自然環境保全地域などに指定された地域を守り、保全します。	自然環境が保護されている地域の割合	A
2	身近な緑の保全・再生・創造 潤いのあるみどり豊かな県土の創造を図るため、都市化の進展などにより減少する傾向にある緑を守り、増やすことを目指します。		
3	景観・歴史的環境の保全 優れた景観や歴史的環境を保全して、次代に継承します。		
4	野生動植物の保護 野生動植物の多様性によって健全な生態系が維持されていることを踏まえ、多様な動植物を保護し、その生育、生息環境を守ることを目指します。		
5	森林の適正な管理 水源のかん養や県土の保全、地球温暖化防止のための二酸化炭素吸収源など、森林の持つ様々な働きを高度に、かつ、持続的に発揮させるため、健全な森林の育成を目指します。	民有林の人工林間伐実行面積割合	B
6	自然とふれあう場や機会の提供 自然に対する理解を深め、自然保護の意識をはぐむため、自然とのふれあいの機会の充実、拡大を目指します。	みどりとふれあえる空間の面積(森林公園等の面積)	B

達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できないため判定不能)

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

	第5回(H17)	参考:第1~4回の推移	第4回(H16)	第3回(H15)	第2回(H14)	第1回(H13)
重視度(中央値、点) A	80.0	重視度 A	73	70	75	74
満足度(中央値、点) B	55.0	満足度 B	60	60	60	60
かい離 A-B	25.0	かい離 A-B	13	10	15	14
【かい離度】	【高い】	【かい離度】	【中】	【中】	【中】	【中】
満足度60点以上の回答者割合(%)	46.5	満足度60点以上の回答者割合	59.4	59.4	56.5	-

かい離:極めて高い(40点以上), 非常に高い(30点以上~40点未満), 高い(20点以上~30点未満), 中(10点以上~20点未満), 低い(10点未満)

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第1~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切

概ね適切

課題有

A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 概ね適切 ・各施策の概要は上記記載のとおりであり、政策を実現するため、6施策全てが必要と認められる。なお、景観・歴史的環境の保全は、優れた景観や歴史的環境を保全することにより、自然環境と一体となった豊かな環境を創出するものである。 【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・各施策間における重複や矛盾はない。
A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 概ね適切 ・本施策の県民満足度は55点、重視度は80点と比較的高く、かい離も25点と高い。個別の施策においても、3施策において、かい離が25~30点と高くなっている。これは、本施策に対する県民の関心の高まりと考えられ、必要性が高い政策と判断する。 ・森林の持つ二酸化炭素吸収源としての機能や身近な緑の保全や再生は、地球温暖化対策に直接、効果を発揮するものであり、対策における重要な位置づけがなされており、本施策の担う役割は大きいものがある。 ・豊かな緑や優れた景観など、優れた自然環境は我々の暮らしに潤いと安らぎをもたらすものであり、こうした環境に着目した「自然と共生する社会」を実現しようとする動きは世界的に大きな潮流となっている。また、こうした自然環境の保全、創造への取組は従来の行政の枠組みだけでなく、NPOや市民団体の参加あるいは、協働して目的を達成しようとする動きが顕著化している。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第5回 18.4%	3位	・本施策の優先度は 6施策中 3位である。 ・本施策のかい離は 20.0点と 高い。 【結論】必要性: 比較的感じていない	・自然環境保全に関する県民意識が高揚しているほか、景観保全に加え生物の多様性を確保する観点からも保全要請が強まっており、今後も重点的に取り組む必要がある。 ・潤いのあるみどり豊かな県土を創造する施策として県民の「緑」に対する意識が強いと考えられることから、今後も継続的に取り組む必要があると判断される重要な施策である。 ・景観形成、屋外広告物への監視、指導など良好な都市環境の維持形成への取組みを継続していくことが必要である。 ・都市化の進展等により、野生動植物の生息・生育環境が大きく変化しており、中には、減少したり絶滅する種も認められるため、野生動植物の多様性を保全する観点から必要な施策である。 ・地球温暖化防止に向けた二酸化炭素吸収源対策としての森林整備に対する社会的要請に対応するとともに、森林の公益的機能を発揮させるために必要な施策である。 ・自然とのふれあいの機会の充実・拡大を目指す事業であり、特に都市部における宅地化などの開発が緩やかであるが進んでいることから、一層の施策推進が必要である。	中	
	第4回 18.6%	3位				
	第3回 19.6%	3位				
2	34.5%	1位	・本施策の優先度は 6施策中 1位である。 ・本施策のかい離は 25.0点と 高い。 【結論】必要性: かなり感じている			大
	32.9%	1位				
	32.9%	1位				
3	7.2%	5位	・本施策の優先度は 6施策中 5位である。 ・本施策のかい離は 12.5点と 中程度である。 【結論】必要性: あまり感じていない			中
	7.7%	5位				
	8.2%	5位				
4	6.1%	6位	・本施策の優先度は 6施策中 6位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: ある程度感じている			中
	7.1%	6位				
	7.9%	6位				
5	19.3%	2位	・本施策の優先度は 6施策中 2位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: かなり感じている			大
	20.3%	2位				
	20.1%	2位				
6	13.4%	4位	・本施策の優先度は 6施策中 4位である。 ・本施策のかい離は 20.0点と 高い。 【結論】必要性: 比較的感じていない			中
	12.8%	4位				
	10.5%	4位				

必要性のランク【結論】:非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切

概ね適切

課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 概ね適切
 ・政策評価指標は設定されている3指標とも存続であり、指標群は概ね適切と判断し、今後も継続する。なお、予算措置と密接に関係のある施策6(みどりとふれあえる空間の面積)については、前回から面積の増加がなく、今後も指標の達成については厳しい状況にある。

【重視すべき施策に指標が設定されているか】 概ね適切
 ・かい離度の高い施策や優先度、重視度の高い施策に指標が設定されており、概ね適切と判断する。
 施策1(かい離度20点, 優先度3位, 重視度80点) 施策5(かい離度30点, 優先度2位, 重視度80点) 施策6(かい離度20点, 優先度4位, 重視度70点)
 ・なお、施策2は優先度が高く、必要性も高い施策になっていることから、今後、取組について検討を進める。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効

概ね有効

課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視 点	政策全体	施策1	施策5	施策6				
政策評価指標達成度	概ね有効	概ね有効	概ね有効	課題有				
県民満足度	概ね有効	概ね有効	概ね有効	概ね有効				
社会経済情勢	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし				
全 体	概ね有効	概ね有効	概ね有効	概ね有効				

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切

概ね適切

課題有

・A-1政策重視度が高いことや政策満足度とのかい離幅も大きいことから政策の必要性は高いと判断する。施策の設定は概ね妥当である。
 ・A-2政策評価指標の設定がある3指標とも存続であり、施策の有効性を評価する上では概ね適切と判断する。
 ・A-3県の財政状況から政策評価指標の達成が厳しい施策もあるが、県民満足度は55点と比較的高く、施策は概ね有効だったと判断する。
 ・1~3の各項目を総合的に勘案し、「概ね適切」と判断した。

対象年度 H17

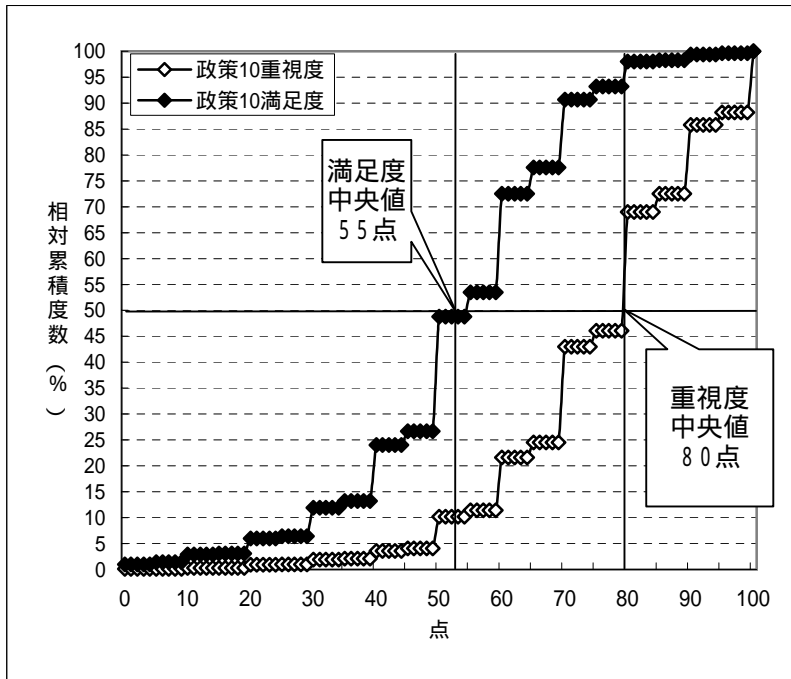
政策番号 1 - 3 - 3

政策名 豊かな自然環境の保全・創造

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 83.4

高認知度 41.2

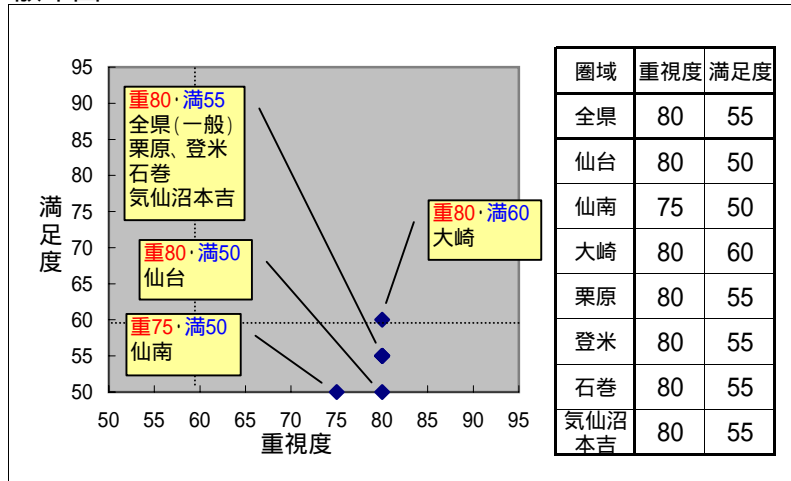


高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心がある」、「ある程度関心がある」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っている」、「ある程度知っている」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	80	80	80	55	60	60
第1四分位	-	-	-	45	50	50
第3四分位	-	-	-	65	65	66.3
四分偏差	-	-	-	10	7.5	8.13

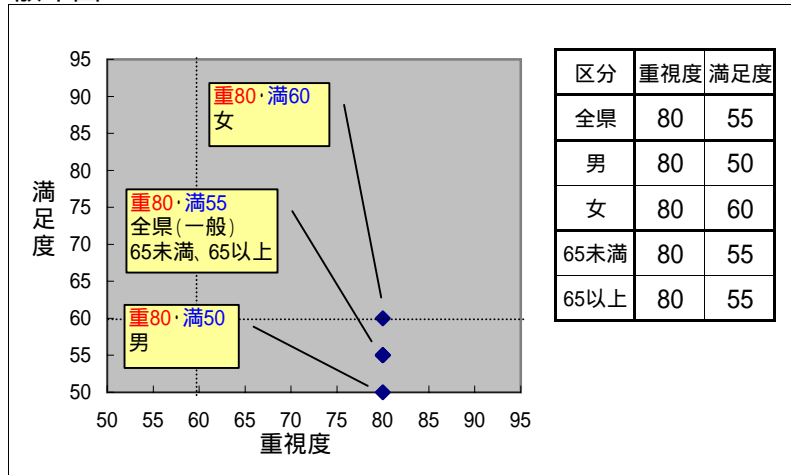
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	80	75	-	50	60	-
仙南	75	80	-	50	60	-
大崎	80	80	-	60	60	-
栗原	80	70	-	55	60	-
登米	80	72.5	-	55	57.5	-
石巻	80	70	-	55	55	-
気仙沼本吉	80	75	-	55	60	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	80	-	-	50	-	-
女	80	-	-	60	-	-
65未満	80	-	-	55	-	-
65以上	80	-	-	55	-	-

対象年度 H17

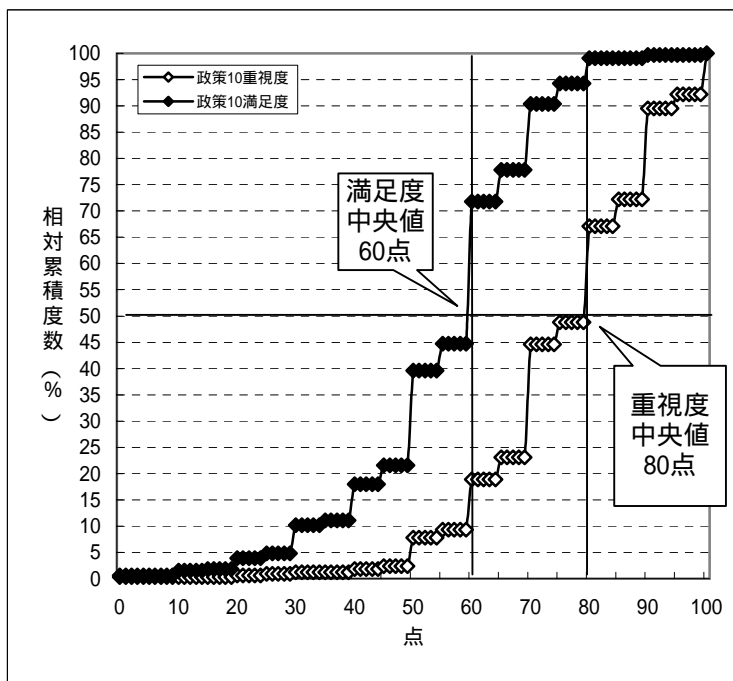
政策番号 1 - 3 - 3

政策名 豊かな自然環境の保全・創造

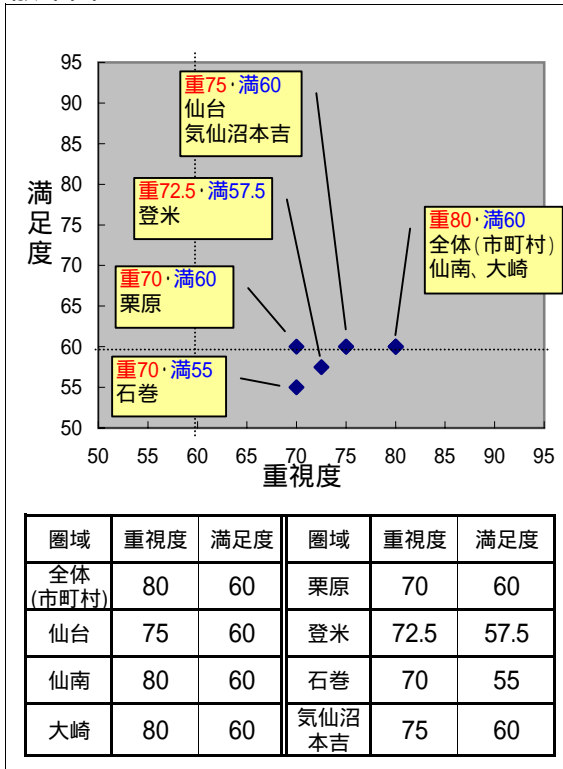
(2) 有識者(市町村職員)満足度調査結果

高関心度 85.9

高認知度 52.9



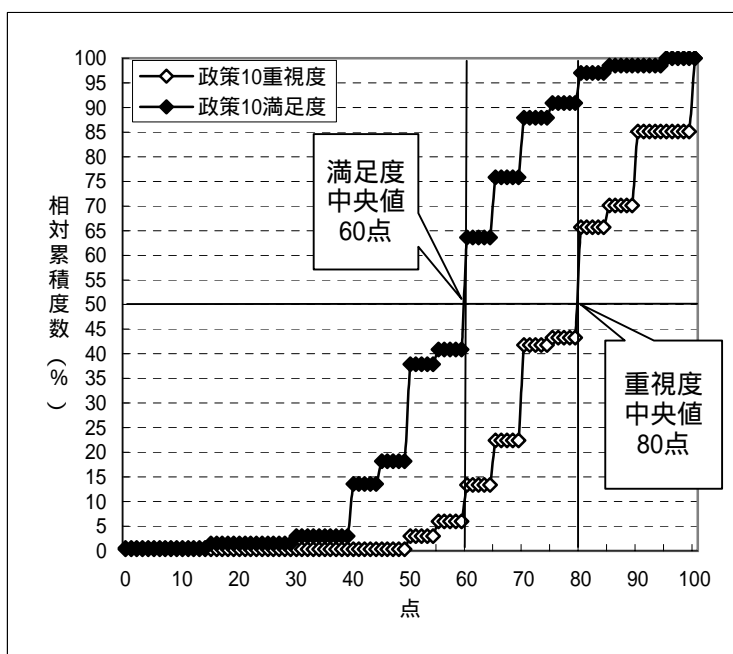
散布図



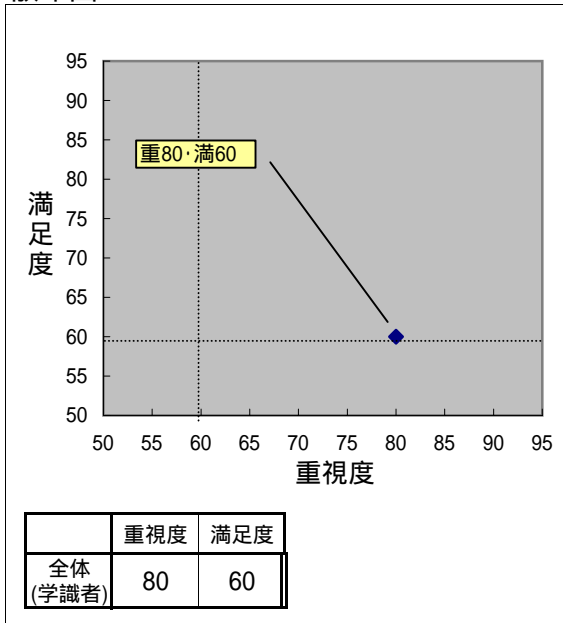
(3) 有識者(学識者)満足度調査結果

高関心度 93.9

高認知度 69.3



散布図

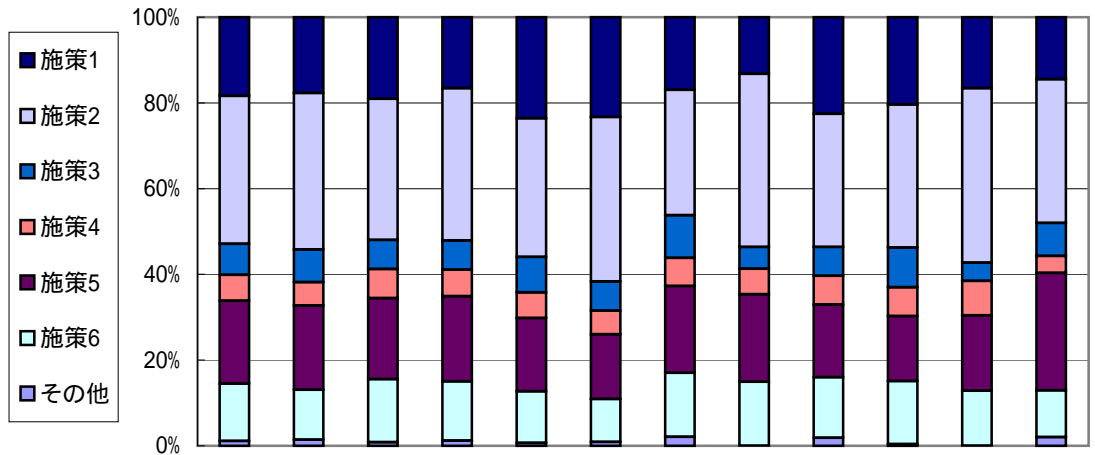


対象年度 H17

政策番号 1 - 3 - 3

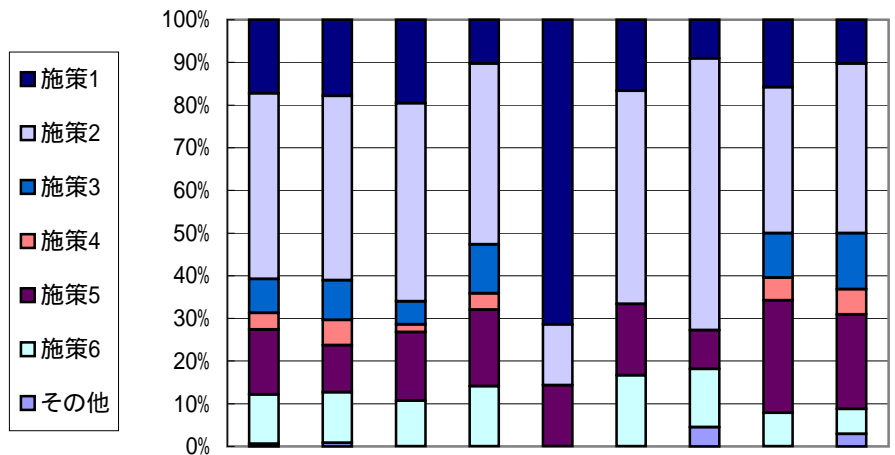
政策名 豊かな自然環境の保全・創造

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉
施策1	自然公園等の優れた自然環境の保全	18.4	17.7	19.0	16.6	23.6	23.3	16.9	13.2	22.6	20.4	16.6	14.5
施策2	身近な緑の保全・再生・創造	34.5	36.5	32.9	35.5	32.3	38.4	29.3	40.4	31.1	33.3	40.6	33.5
施策3	景観・歴史的環境の保全	7.2	7.6	6.8	6.8	8.3	6.8	9.9	5.1	6.7	9.3	4.3	7.7
施策4	野生動植物の保護	6.1	5.5	6.8	6.2	6.0	5.5	6.6	6.0	6.7	6.7	8.0	4.0
施策5	森林の適正な管理	19.3	19.6	18.9	19.9	17.1	15.1	20.2	20.4	17.0	15.1	17.6	27.4
施策6	自然とふれあう場や機会の提供	13.4	11.7	14.7	13.8	12.0	10.0	14.9	14.9	14.1	14.7	12.8	10.9
	その他	1.1	1.4	0.8	1.2	0.7	0.9	2.1	0.0	1.9	0.4	0.0	2.0

(5) 有識者(市町村職員・学識者)満足度結果(施策別・優先度1位割合)



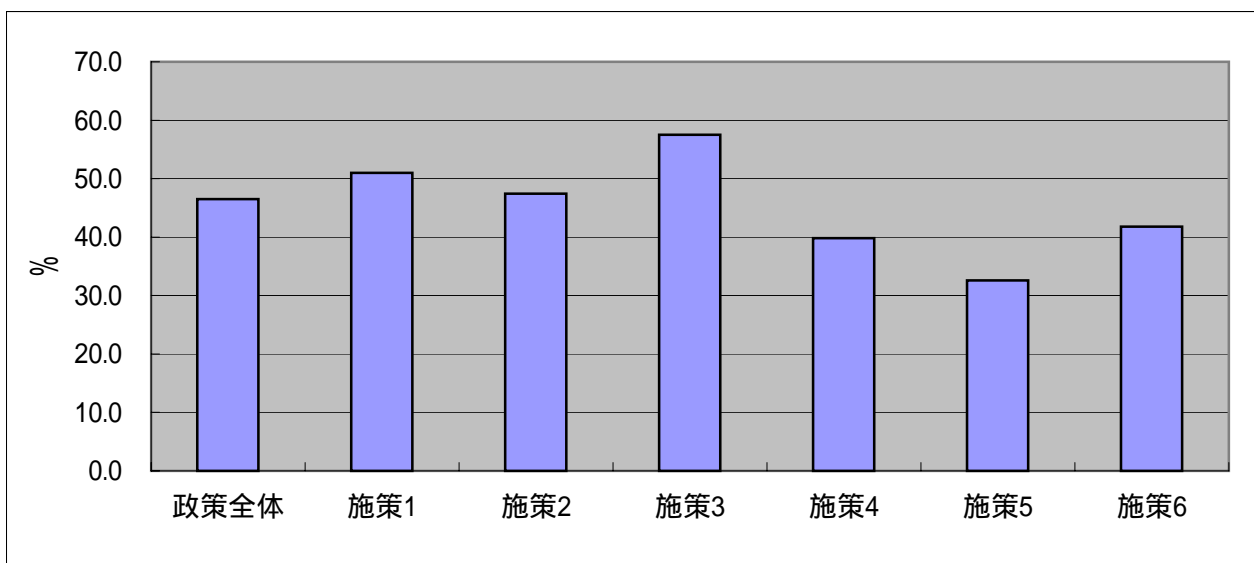
施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉	
施策1	自然公園等の優れた自然環境の保全	17.3	17.8	19.6	10.3	71.4	16.7	9.1	15.8	10.3
施策2	身近な緑の保全・再生・創造	43.5	43.2	46.4	42.3	14.3	50.0	63.6	34.2	39.7
施策3	景観・歴史的環境の保全	8.0	9.3	5.4	11.5	0.0	0.0	0.0	10.5	13.2
施策4	野生動植物の保護	3.9	5.9	1.8	3.8	0.0	0.0	0.0	5.3	5.9
施策5	森林の適正な管理	15.2	11.0	16.1	17.9	14.3	16.7	9.1	26.3	22.1
施策6	自然とふれあう場や機会の提供	11.6	11.9	10.7	14.1	0.0	16.7	13.6	7.9	5.9
	その他	0.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	2.9

対象年度 H17

政策番号 1 - 3 - 3

政策名 豊かな自然環境の保全・創造

(6) 政策・施策満足度60点以上の回答者割合(一般県民、単位:%)



施策番号	施策名	第5回							
	政策全体	46.5							
施策1	自然公園等の優れた自然環境の保全	51.0							
施策2	身近な緑の保全・再生・創造	47.4							
施策3	景観・歴史的環境の保全	57.5							
施策4	野生動植物の保護	39.8							
施策5	森林の適正な管理	32.6							
施策6	自然とふれあう場や機会の提供	41.8							